高校入試をめぐる心理的環境の一考察

蔭　山　庄　司

Ⅰ　研究の目的

いわゆる「高校生急増期」（昭和38年度）に入学試験を経験した新入高校生の入試をめぐる心理的環境の一端を知り，生活指導のための一資料にあてる。

Ⅱ　研究の方法

心理的環境を知るための問題をつくり，質問紙法により解答結果を整理し考察を加える。

Ⅲ　調査のための問題

1.　生徒の希望する高校に入学できたかどうかを質問し，希望校に入学できなかった者にたいしては，その理由をたずねる。

> ※6.　あなたは自分の希望する高校に入学できましたか。{はい / いいえ
> 〝いいえ〟と答えた人はその理由を○印をつけて答えてください。
> イ．希望校の入試に失敗したから。
> ロ．家庭の都合で受験できなかったから。
> ハ．中学校の先生が受験させてくれなかったから。

※6.とあるのは調査問題の番号。このような質問を最初に出すのは適切でないから6番目の質問とした。以下，これに準ずる。

2.　高校入学後，特に興味をもって研究しようとする科目群を三大別し，科目群別に調査結果の傾向を考察するため次の質問を試みる。――調査の結果，およそ半数の生徒が未定と答えているので，科目群別の結果の処理はとりやめることにした。

> 4.　高校入学後，あなたは次のどの方向に進もうとしていますか。

（○印を1つだけつけてください。）

イ．主として　国語，歴史，地理，倫理など文科方面の研究をすすめたい。

ロ．主として　数学，物理，化学，生物，地学など自然科学の研究をすすめたい。

ハ．主として　政治，経済，家庭科など実社会の研究をすすめたい。

3.　高校入学という心理的満足の事態をどのような実感でうけとめているか，次の場合について考察する。

イ．自己自身の側で自律的にうけとめている。

ロ．他者，特に教師の側で他律的にうけとめている。

ハ．人間以外の力の側でうけとめている。

{運・不運ということを強く感じとっている。
{神仏の加護を感じとっている。

1.　戦後最大といわれる高校進学希望者の中から選ばれてあなたは高校に入学することができました。これはつまるところ

イ．あなた自身が熱心に勉強をしたからである。

ロ．中学校の先生の進学指導がよかったからである。

ハ．幸運にめぐまれたにすぎない。

ニ．目に見えないが神仏のおかげによるものと思っている。

※（イ，ロ，ハ，ニ の中からあなたの感じているままを1つだけえらんでそれに○印をつけてください。）と付記して問いが投げかけられている。

4.　中学生の高校入試にたいする態度を考察する手がかりとして

イ．入試合格を第一目的と思いこんでいるか。

ロ．入試合格だけが人生のすべてではないと考えているか。

ハ．高校へ進学したくないのに無理に入試勉強をさせられたか。

などについて調査をすすめる。

2.　あなたの受験勉強を反省して，ありのままを答えてください。

イ．まず何よりも入試に合格することが理想実現の第一歩である

と思い熱心に勉強した。

ロ．入試に合格するだけが人生のすべてではない。合格すれば幸であるが，不合格でもかまわない。しかし，やるだけはやってみようと勉強はあまりなまけなかった。

ハ．高校へ自分で進んで行きたくないが，親などにすすめられていやいやながら勉強した。

5.　中学校時代の受験勉強をふりかえってみて，その期間の感想をきくため，次の質問に答えさせる。

3.　イ．入試は選抜試験であるから交友関係もほどほどにして，自己中心のガリ勉強もやむをえなかった。

ロ．父母・教師などが勉強々々とやかましく言いすぎて不快であった。

ハ．勉強がおもしろく，成績も上位であったからそんなに苦痛でなかった。

ニ．入学試験のための勉強は苦痛でたまらなかった。しかし，今は

1.　進学できたので苦痛も一つのなつかしい思い出となっている。

2.　さらに大学入試などのことを思えば再び苦痛を覚悟せねばならぬだろう。

6.　中学生時代の「受験勉強」と学校における「特別教育活動への参加」とは，どのような関連がみられるか。また，高校入学後のクラブ活動などへの参加希望をも併せて質問し，考察を試みる。

5.　中学校では教科の勉強のほかに特別教育活動（生徒会活動，クラブ活動，ホームルーム）や学校行事などの時間があったでしょう。これらの時間について中学校時代のことを思い出し高校入学後もどのようにしようと思っているかを答えてください。

イ．これらの時間は学校生活でなくてはならぬものと思い進んで参加し，たいへん有意義であったので高校入学後もひきつづきやりたい。

ロ．これらの時間にはあまり参加しないで，入試の受験勉強をした。高校入学後も大学進学の目的のために全力をつくしたい。

ハ．中学時代には進んで参加しなかったが，高校は高等普通教育を受けるところであるから，社会の期待にこたえられるだけの視野のひろい人間に成長するため，これらの時間にも参加してゆきたい。

Ⅳ　調査の対象と調査の方法

1.　調査の対象：兵庫県南部（山陽本線の沿線）の或る一定地区を選び，公・私立高等学校（全日制・定時制を含めて）11校の新入一年生全員。

2.　調査の日時：入学式の当日もしくは入学式後一週間以内におけるホームルームの時間を利用する。

3.　調査の方法：質問用紙を生徒各自に配布し，ホームルーム担任教諭の指示にしたがって無記名方式により解答欄に○印をつけさせる。

4.　調査期日：昭和38年4月

備考：問題用紙配布後およそ5～6分間以内に用紙を回収することを予告した。

解答は長時間考えることなく，直感的に○印をつけるよう指示した。

解答用紙には学校名を記入しないが，学校別に集計する旨を伝えておいた。

Ⅴ　調査結果の整理

1.　調査した全データは高校新1年生男子 2,444 名，女子 1,783 名，計 4,227名である。

2.　全データを公立学校と私立学校に二大別し，前者をさらに，全日制普通高校（3校），全日制実業高校，及び定時制高校（2校），の三校種群に分け，後者をA校，男子高校（2校），女子高校（2校），の三校種群に区別し，各群ともそれぞれ男女別に分けて整理した。

私立学校のA校は男子のみの学校で著名大学への進学者が極めて多く，そのことが一つの特徴のように見られている学校であるから他の学校群と区別した。

なお，すべての私立高校で自校の中学部卒業者は，この調査から除外されている。そして，これらの私立学校の前身は戦前の中学校・高等女学校で校名の広く知られている学校を選んだ。

3. それぞれの校種別に解答を整理して別表にまとめた。別表中に「その他」の欄が問題群別に設けられているのは，質問用紙の解答欄に記載されている以外のことを答えたり，或は空白のままで○印をつけなかった者の集計である。

Ⅵ 調査結果の考察

A. 男女別による全体的考察

1. 生徒の希望する高校に進学できたと答えた者は男子1,410名(男子全体の57.7%にあたる)，女子1,286名（女子全体の72.1%にあたる）であった。

2. 男子生徒の42%強，女子生徒の28%弱は，自分の希望する高校に進学できなかった，と答えている。

3. さて，希望する高校へ入学できなかった理由を希望高校に進学できなかった生徒数を100とする百分比により比較してみると，希望校の入試に失敗したと答えた者が男子で65%弱，女子で52%強あり，家庭の都合で受験できなかったと答えた者が男子で9%弱，女子で11%弱あった。そして，中学校の先生が受験させてくれなかったと答えている者が男子で24%，女子で32%強あることは進学指導上の或る問題点を示唆しているようにも考えられる。(学校群の別によりそれぞれの特徴があらわれているが，これは後に述べる。)

4. 高校入学後，主としてどのような科目群について研究を進めようとしているかを質問した結果は，私立A校を除いて未定と答えた者が約半数を占める。(男子48%強，女子60%弱)。

男子に「自然科学方面の研究に進みたい」と答えた者が24%強あったのに比べて，女子はわずかに6%強の少数であった。また，「文科方面の研究を進めよう」とする者が男子で10%弱，女子で13%弱を数えるが，公立

全日制普通高校群の女子（18%強）を除いて，一般にこの方面の研究を志す者はそんなに多くはなかった。「主として実社会の研究を進めよう」と答えた者は比較的多く，男子に18%弱，女子に21%弱が数えられる。

5.　「戦後最大といわれる高校進学希望者の中から選ばれて，高校に入学できた」ことにたいする実感として，これをどのようにうけとめているかについて調査した結果は，男子平均では「自分自身が熱心に勉強したから」と自律的傾向を示す者が31%強(これにたいし女子は25%弱)，を数えるが，女子では，「中学校の先生の進学指導がよかったから」と他律的傾向を示す者が38%弱あって（男子では29%弱）興味ある数値をあらわしている。

人間以外の力の側においてうけとめている者（幸運にめぐまれたにすぎぬ・神仏のおかげによる，と答えた者）もかなり多く，男子で38%弱，女子で37%弱を数え，男女ほぼ同比率を示している。

6.　入試にたいする態度として「入試合格が人生のすべてではない……」と答えた者は男子で63%弱，女子で65%弱あり，各校種群ともに過半数以上を占めていることは健康な心的態度としてよろこばしいが，「まず何よりも，入試に合格することが理想実現の第一歩であると思い……」と答えている者も男女ともに30%弱あり，入試にたいする真摯な態度を訴えているようにも思える。しかし，この比率は各校種間に著しい変化があり，最高比率は全日制普通高校（公立）の男子群で40%強，最低比率は定時制高校女子の18%強となっている。

「高校へ行きたくないが親などにすすめられて，いやいやながら勉強した」と答えた者は極めて少く，男子で5%強，女子で4%強あった。（最高百分比は，私立男子高校群の7.2%，最低は定時制高校女子の2.3%）

7.　入試勉強の感想についての調査結果では，「入試勉強は苦痛でたまらなかった」と答えた者が各校種群を通じて最も多くおよそ半数を占めている。(男子48%，女子53%弱)。

その中の過半数の者は「しかし今は進学できたので苦痛も一つのなつか

しい思い出となっている」と答えている。しかし，「大学入試で再び苦痛を覚悟しなければならぬだろう」と答えた者も，全体の百分比において男子で16%弱，女子で9%弱が数えられ，男子は女子に比べて，全体としておよそ1.8倍の数が，大学進学のための苦痛を予期していることになる。

「父母・教師などが勉強々々とやかましく言いすぎて不快であった」と答えた者も男子30%強，女子26%を数える。

なお，「入試は選抜試験であるから交友関係もほどほどにして，自己中心のガリ勉強もやむをえなかった」と答えた者は，男子10%強，女子9%強であった。これら入試勉強にたいする感想を各校種群別に整理した結果には多様な変化がみられるが，これらについては後に述べる。

8.　入試勉強とクラブ活動などへの関心についての調査結果をみると，「中学校では参加しなかったが高校入学後は参加したい」と答えた者が過半数を占め，男子52%，女子66%強であった。中学時代から参加していて「高校入学後も続けたい」と答えた者も男子23%弱，女子28%弱あって，クラブ活動などへの関心の強さをあらわしている。中学校・高校を通じて受験勉強に専念しようと考えている者は男子では13%，女子では5%強を数える。（各校種群によってかなりの相違がみられるが，後に述べる。）

B．各校種群別・男女別による調査結果の考察

1.　「希望校に入学できた」と答えた者の比率が高い順に校種群をみてゆくと，男子では私立A高校（98%），公立全日制普通高校（88%），実業高校（73%），定時制高校（63%），男子私立高校（25%），となり，女子では公立全日制普通高校（92%），実業高校（65%），女子私立高校(53%)，定時制高校（48%）となっている。定時制高校生や私立高校生のもつ希望校に入学できなかったという潜在意識が入学後の学校生活にどのように反映するかの検討が今後の課題として残っている。

別表に示されている（ここで検討した百分比のこと）公立全日制普通高校の調査結果は，同一学区内（中学区制）の三高校の解答を集計したものであるが，一つ一つの学校においてかなりの変化がみられる。このことは，

学校差というものを生徒自身が意識してか，それとも何らかの外因に影響されてかはわからないが，「よい学校」といわれる学校への進学を希望していたところ，中学校の進学指導などによって（次項を参照されたい）それらの高校に受験できなかった者もかなりめだっている。希望校に入学できなかったという潜在意識は，定時制や私立の高校だけでなく，全日制の普通高校の生徒ももっているわけである。

参考資料（公立全日制の普通校3校の比較）		公立の全日制 A校 男	A校 女	B校 男	B校 女	C校 男	C校 女
希望校に入学できた（はい）		332人 (95.6)%	195 (97.9)	175 (86.2)	241 (96.4)	160 (76.9)	339 (86.5)
希望校に入学できなかった（いいえ）		15 (4.3)	4 (2.0)	28 (13.7)	9 (3.6)	48 (23.1)	53 (13.5)
計		347 (100)	199 (100)	203 (100)	250 (100)	208 (100)	392 (100)
希望校に入学できなかった理由	希望校の入試に失敗した	7 (46.7)	0 (0)	11 (39.3)	1 (11.1)	5 (10.4)	6 (11.3)
	家庭の都合で受験できなかった	2 (13.3)	1 (25.0)	3 (10.7)	2 (22.2)	7 (14.6)	7 (13.2)
	中学校の先生が受験させてくれなかった	5 (33.3)	3 (75.0)	12 (42.9)	4 (44.4)	32 (66.7)	37 (69.8)
	その他	1 (6.7)	0 (0)	2 (7.1)	2 (22.2)	4 (8.3)	3 (5.7)
計		15 (100)	4 (100)	28 (100)	9 (100)	48 (100)	53 (100)

2.　希望校に進学できなかった理由を，各校種群別にみると（希望校に進学できなかった生徒数を100としての百分比による），全日制の公立高校群では，「中学校の先生が受験させてくれなかった」と答えた者がいずれも過半数以上を占めている（男子では普通校群53%，実業学校69%，女子ではそれぞれ67%, 78%となっている）。これらの生徒は現在入学している学校以外の高校を希望していたわけである。おそらく，今，入学した学校よりも社会的評判のよい学校を希望していたのであろう。

前項に示した公立の全日制普通高校のA校では97%弱の生徒が希望校に入学できたと答え，また私立A校で，わずか4%（実数2名）が「家庭の都合で自分の希望する高校へ進学できなかった」と答えた他は，残りの96

%が「希望校に入学できた」者であることによっても，このことが推察される。

「希望校の入試に失敗した」と答えた者の多い学校群は，男子及び女子の私立高校群で，いずれも半数以上（男子80%強，女子66%弱）を占めている。

定時制高校では「家庭の都合」によると答えた者が，およそ半数（男子41%，女子57%）を占めているのも学校の特徴をあらわしているようである。

3. 高校入学後，主として研究をすすめようとする科目群を定めていない者の比率は男子よりも女子に高いが，特に私立A校については未定者はわずかに28%で（男子平均48%，女子は60%），「主として自然科学の研究に進もう」と答えた者が64%の高率（平均：男子24%，女子6%）にのぼり，「文科方面の研究に進もう」とする者が皆無（平均：男子10%，女子13%）であったこともこの学校の一つの特色といえよう。

なお，「実社会の研究を進めたい」と答えた者の百分比の高い校種群は公立実業高校女子群（44%），女子私立高校群（25%），定時制男子群（21%）などである。（平均：男子18%，女子21%）。

4. 高校へ進学できたことについての実感をたずねた結果，「自分自身が熱心に勉強したから」という自律的傾向を示す比率の高い学校は，私立A校（48%）や公立の全日制普通高校（男子43%，女子32%）などで，低い学校群は実業高校（男子20%，女子17%）や男子・女子の私立高校群（男子28%，女子18%）である。これとは逆に，人間以外の側（運・不運・神仏の加護）に求める傾向は定時制高校（男子56%，女子43%），実業高校（男子45%，女子46%），私立高校（男子41%，女子44%）などの各群に高く，私立A校（26%），公立の全日制普通高校（男子26%，女子28%）の各群に低い。

また，「中学校の先生の進学指導がよかったから」と答えた者は，どの学校群にも男子の比率が女子よりも低い傾向がみられるが，低い校種群と

しては，定時制高校（男子20%，女子21%），私立A高校（26%），男子私立高校（28%）などが数えられ，高い校種群には実業高校（男子35%，女子36%），女子私立高校（36%）などがみられる。そして，全日制普通高校(公立）群の女子が40%弱の比率を占めていること（同群の男子は31%）も注目される。

5.　つぎに入試にたいする態度について各校種群は，どのような変化をあらわしているかを見ることにしよう。

「入試合格が理想実現の第一歩と思い……」と答えた者の平均百分比(男子・女子とも30%)以上の校種群は，公立全日制普通高校(男子・40%，女子33%)，私立A校(36%)で，平均百分比以下の校種群は，定時制高校(男子・19%，女子・18%)，実業高校女子(23%)，男子私立高校(25%)などである。

「入試合格が人生のすべてではない」と答えた者は，どの校種群も過半数以上を数える（平均：男子・63%，女子・65%）が，特に比率の高い校種は，定時制高校（男子・74%，女子・75%)で，実業高校（男子・65%，女子・73%）がこれにつぎ，男子，女子の両私立高校群は，ともに平均値に近い。私立A高校や公立全日制普通高校では，他の校種に比べてこの百分比が低く（それぞれ58%，57%)，これらの学校の生徒の中には，入試合格ということを生活目標においている者が多少とも多いことを示している。

「高校へ行きたくなく，いやいや勉強した」者の比率は男女両私立高校群と，実業高校群に高く，定時制高校の女子が最低であった。（この解答者の百分比は極めて小さく，最高が7%，最低が2%である)。

6.　入試勉強を回顧させその感想を質問した結果によると，「自己中心のガリ勉強もやむを得なかった」と答えた者の全体の百分比は，わずか10%（男子・10%，女子・9%）程度であるが，定時制高校群は男子17%強，女子16%弱を数え各校種群中で最高であった。最低比率を示しているのは私立A校の6%で，公立全日制普通高校群がこれについでいる（男子・9%，女子・7%)。

この調査では私立A校は「勉強がおもしろく……入試勉強はそんなに苦

痛ではなかった」と答えている者が比較的多く32%を数えているので（平均百分比，男子6%，女子・7%），「自己中心のガリ勉強もやむを得なかった」の比率が減少したのであろうか。それとも，定時制高校の生徒は入学当初から人生にたいする競争心をもやしているのであろうか。

全日制普通高校群の男子や実業高校群には「父母・教師などが勉強々々とやかましく言いすぎて不快であった」と答えた者が比較的多く，（平均百分比：男子・30%，女子・26%）普通高校男子は34%，実業高校男子39%，女子34%を数える。この解答率の低いのは私立A校（わずか8%）と定時制高校（男子・21%，女子11%）で，ほぼ平均百分比に近いのは全日制普通高校の女子群（26%）と私立高校群（男子30%，女子26%）である。

「勉強がおもしろくて成績も上位であったから，入試勉強はそんなに苦痛ではなかった」と答えた者の百分比の高い学校は，私立A高校で32%を数える。（平均：男子・6%，女子・7%），これとは逆に低い学校群は，実業高校の男子（0.3%），私立高校群（男子1%，女子2%），実業高校の女子（4%）などで，全日制普通高校群では男子12%強，女子12%弱が数えられる。

前にも述べたように，だいたい50%内外の者が「入試勉強は苦痛でたまらなかった」と答えているが，その半数近く（男子の場合），もしくは半数以上（女子の場合）の者は，「進学できた今日では苦痛もなつかしい思い出の一つとなっている」と答え，その苦痛は解消されている。

ところが，まだ苦痛を将来に予期して「大学入試で再び苦痛を覚悟せねばなるまい」と答えている者が，男子の場合では，私立A校（38%），全日制普通高校群（19%），私立男子高校群（18%），女子の場合では全日制普通高校群（12%）などに比較的多くみられる（平均百分比：男子・16%，女子9%），大学入試の苦痛を予期することの少ない校種群は，男子では定時制高校群（4%）実業高校（10%），女子では実業高校（0%），定時制高校（5%），私立高校（7%）などをあげることができる。

7. 中学校時代から特別教育活動（クラブ活動など）に熱心に参加して

いた者は，全体として男子33%弱，女子28%を数えるが，各校種群別に比率の高い学校群を順次選び出すと，定時制女子群(47%)，私立A高校（42%)，私立高校群(男子・34%，女子・32%）などで，中学校時代に不参加者の多かった校種群は，全日制普通高校(男子・28%，女子・24%)，実業高校(男子・30%，女子・22%）などである。

中学校でも参加せず高校でも参加せず，入試勉強に専念しようとする者の数は全体においてそれほど多くなく，男子平均13%，女子平均5%を占めるだけであるが，校種別にみると，全日制普通高校男子群や私立A校は多少とも高い比率を示している（ともに18%)。男子の私立高校群も13%という比較的高率であるが，これらの学校の生徒は受験中心に学校生活を送ろうと考えているのであろうか。

しかし，どの校種群も高校生活では（中学校で参加していた者も，進んで参加したかった者も）大多数の生徒が特別教育活動に参加しようとしていることは，健康的な考え方としてよろこばしいことである。

Ⅶ　結　　論

1.　親や教師が希望する高校と生徒の希望する高校とは必ずしも一致するわけではないが〔例えば私立A校では「自分の希望に反して家庭の都合でこの学校に入学した」旨を答えている者が2名（全員の4%にあたる）ある〕，生徒の希望通りに進学できたと答えた者は男子では全調査人員の57.7%，女子では72.1%である。

これらの比率は，各校種群により変化がみられるが，高比率の順位を見ると全日制普通高校についで実業高校が高く，つぎに男子では定時制高校，私立高校の順に，女子では私立高校，定時制高校の順となっている。

なお，大学進学率の極めて高い私立A校はこの百分比が特に高く，また，同一学区内の三つの普通高校(公立)の百分比を比較すると，大学進学率の高い学校ほど高く，特に男子の場合は，三校間の差が著しくあらわれている。

2.　希望校に進学できなかった理由を，全員平均の百分比についてみると，その過半数（男子・65%，女子・52%）は希望校の入試に失敗したと答えて

いるが「中学校の先生が希望校の受験をさせてくれなかった」と答えた者が，男子で24%，女子で32%あることは，進学指導上の問題点を示唆しているように思える。家庭の都合で希望校に進学できなかったと答えた者は比較的少く，男子で9%，女子で11%を数える。

しかし，各校種群別に考察した場合には，各群によって著しい特徴がみられる。すなわち，全日制公立高校では「中学校の先生が受験させてくれなかった」と答えた者が，そして，私立高校では「希望校の入試に失敗した」と答えた者が，それぞれ過半数を占め，また，定時制高校では「家庭の都合による」と答えた者がおよそ半数を占めていた。

3. 高校入学当初の生徒は殆んどの学校において，専攻しようとする教科や科目群を定めていない。特に女子に未定者が多くみられた（男子・48%，女子・60%）

自然科学の方面の研究を進めようとする女生徒は極めて少く，男生徒（24%）の¼の比率を示すのみである。

4. 高校入学の喜びを実感として，どのような受けとめ方をしているかについてみた場合，男子は自律的傾向をもち，女子は他律的傾向を示すように思われる。

他律的な場合の一つといえようが，人間以外のもの（運・不運とか神仏の加護など）の側において受けとめようとする者の数は，男女とも大差はない。

各校種群によって，実感としての受けとめ方にちがいがあらわれているが，公立の全日制普通高校群では自律的傾向が強く，定時制高校群，実業高校群，私立高校群では，他律的傾向特に人間以外の側（運・不運とか神仏の加護など）に求める傾向が強い。「中学校の先生の進学指導がよかったから」との答えに示される他律的傾向の強いのは，実業高校群と女子私立高校群で，特に薄弱なのは定時制高校群であった。

5. 「入試合格が人生のすべてではない……」と答えた者が各校種群とも過半数を占めているが，特に定時制高校群で高比率を示している。しかし，「入試合格が理想実現の第一歩であると考えて熱心に勉強した」者も比較的

高い比率を示し，特に私立A高校と公立の全日制普通高校群に多く見られる。

高校進学を好まず無理に勉強をしいられた旨を答えた者は，各校種群とも極めて少いが，男子・女子の両私立高校群の百分比は全日制普通高校(公立)群の2倍を示している。定時制高校群の女子の百分比は最も低く，わずか2%にすぎない。

6. 「入試勉強は苦痛でたまらなかった」と答えた者は各校種群ともに約半数，もしくはそれ以上を数えるが，その中の半数の者は「しかし，今は，苦痛も一つのなつかしい思い出となっている」と答えている。しかし，私立A高校，公立の全日制普通高校群，男子の私立高校群では，高校入学当初においてすでに大学入試への苦痛を訴えている者が，かなりの比率でみられる。

7. 「父母・教師などが勉強々々とやかましく言いすぎる」と答えた者もかなりみられ，特に全日制の公立高校群に比較的高い比率がみられる。

8. 「入試は選抜試験であるから交友関係もほどほどにして，自己中心のガリ勉強もやむをえなかった」と答えている者の百分比が，定時制高校群に高く，私立A高校，公立の全日制普通高校群に低いことに関しては更に考察を要する。

9. 特別教育活動に中学校時代から進んで参加していた者は比較的少いが(男子・33%，女子・28%)，大多数の生徒が高校入学後は進んで参加したいと考えている。

しかし，学校差もかなりあらわれていて，定時制高校の女子群や私立A校などでは，中学校時代からの参加者の比率が高く，公立の全日制普通高校群では低い。中学校時代にも進んで参加せず，高校入学後も大学受験に専念しようと考えている者の比率は，全体からみればそれほど高い比率ではないが，私立A校や公立の全日制普通高校群には若干多く見られる。

10. この調査結果だけを資料として各校種群の特徴的な傾向を比較しながら要約すると，

1. 公立の全日制普通高校群　では殆んどの生徒が希望校に入学できたと答えている（男子・88%，女子・92%)。しかし，自分の希望に反して「中学校の先生が受験させてくれなかった」と答えた者の比率が他の校種群に比

べて高く，同一学区内における学校差の問題をはらんでいるように思える。高校に入学できたよろこびの実感をどううけとめているかの調査では，自律的傾向を示す率が高く，他律的傾向は弱い。しかし，女子生徒の中には「中学校の先生の進学指導がよかったから」と答えた他律的傾向もかなりみられる。

〝入試合格を理想実現の第一歩と思い真摯な態度で勉強をつづけようとする者〟，〝大学受験のための苦痛を予期している者〟，〝クラブ活動などに進んで参加せず，入試勉強に専念しようとする者〟，〝中学校時代において，クラブ活動などに進んで参加しなかった者〟，などの比率が高いのもこの学校群の特徴といえよう。

2・全日制実業高校群　この学校の生徒で希望校に入学できたと答えた者は男子73%，女子65%であった。

「中学校の先生が希望校に受験させてくれなかった」と答えた者が各学校群の中で最も高い比率を示しているが，また別の調査項目では高校に入学できたのは，「中学校の先生の進学指導がよかったから」と答えた者も最高の比率であった。「勉強がおもしろく成績も上位であったから……」の答えは他の学校群と比べて最低の比率であった。中学校時代に進んでクラブ活動などに参加している者の比率は低い。入学できたことにたいする実感として〝運・不運，神仏の加護〟など人間以外のものの側でうけとめようとする傾向が強い。

3・定時制高校群　この学校の生徒で希望校に入学できたと答えた者は，男子63%，女子48%で，〝家庭の都合〟で希望校に入学できなかったと答えた者が多く，実社会の研究をすすめたいと答えた者の比率も他の校種群に比べて最も高い。

入学できたことにたいする実感としては全日制の実業高校と同じく人間以外のものの側でうけとめようとする傾向が強い。

「中学校の先生の進学指導がよかったから」と答えた者の比率が最も低いのはこの定時制高校群である。大学受験の苦痛を予期している者の比率

は最も低く「入試は選抜試験であるからガリ勉強もやむをえなかった」と答えた者の比率は最も高い。

中学校時代からクラブ活動などに進んで参加している者が多く，高校入学後も殆んどの者が参加を希望している。

4．男女私立高校群　の生徒は男子で25%弱，女子で53%強が希望校に入学できたと答えている。希望校の受験に失敗したために，これらの学校に入学した者の比率が多くを占めている。他の校種群に比べて「実社会の研究の方面に進みたい」と答えた者の比率が比較的高く，〝高校に行きたくなく，いやいや勉強した〟と答えた者の数は僅かではあっても，比率からみれば公立の全日制普通高校の2倍を占めている。しかし，男子の私立高校群では「大学受験のことを考えて再び苦痛を覚悟」している者の比率は公立の全日制普通高校のそれにほぼ近い数値を示している。

入学できたことについての実感としては，実業高校，定時制高校群などと同じ傾向をあらわしている。

5．私立A高校　は，公立の全日制普通高校とよく似た傾向をあらわしている。ただ一つ大きくちがうことは，この学校では中学時代からクラブ活動などに進んで参加していた者の比率が極めて高いという点である。

殆んどの生徒が希望校に入学できたと答えている（96%）が，「家庭の都合で希望校へ受験できずに，この学校に進学した」と答えた者が2名（つまり4%にあたる）あった。

高校入試の心理的環境調査　(38.4)

( ) の中の数字は百分比を示す。

調査項目		公立高校 全日制 普通高校(三校) 男	公立高校 全日制 普通高校(三校) 女	公立高校 全日制 実業高校 男	公立高校 全日制 実業高校 女	公立高校 定時制 普通高校(二校) 男	公立高校 定時制 普通高校(二校) 女	私立高校 A校 男	私立高校 男子普高 B校+C校 男	私立高校 女子普高 D校+E校 女	総計 男	総計 女
希望校に入学できた		667 (88.0)	775 (92.2)	237 (73.1)	71 (64.5)	218 (63.4)	21 (47.7)	48 (96.0)	240 (24.8)	419 (53.2)	1410 (57.7)	1286 (72.1)
希望校に入学できなかった		91 (12.0)	66 (7.8)	87 (26.9)	39 (35.5)	126 (36.6)	23 (52.3)	2 (4.0)	728 (75.2)	369 (46.8)	1034 (42.3)	497 (27.9)
計		758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)
希望校に入学できなかった理由	希望校の入試に失敗した	23 (25.3)	7 (10.6)	16 (18.4)	0 (0)	47 (37.3)	9 (39.1)	0 (0)	584 (80.2)	243 (65.9)	670 (64.8)	259 (52.1)
	家庭の都合で受験できなかった	12 (13.2)	10 (15.2)	10 (11.5)	6 (15.4)	52 (41.3)	13 (56.5)	2 (100)	15 (2.1)	25 (6.8)	91 (8.8)	54 (10.9)
	中学校の先生が受験させてくれなかった	49 (53.8)	44 (66.7)	60 (69.0)	31 (79.5)	25 (19.8)	1 (4.3)	0 (0)	114 (15.7)	85 (23.0)	248 (24.0)	161 (32.4)
	その他	7 (7.8)	5 (7.6)	1 (1.1)	2 (5.1)	2 (1.6)	0 (0)	0 (0)	15 (2.1)	16 (4.3)	25 (2.4)	23 (4.6)
	計	91 (100)	66 (100)	87 (100)	39 (100)	126 (100)	23 (100)	2 (100)	728 (100)	369 (100)	1034 (100)	497 (100)
高校入学後、進もうとする方向	主として文科方面の研究	76 (10.0)	153 (18.2)	30 (9.3)	5 (4.5)	29 (8.4)	6 (13.6)	0 (0)	97 (10.0)	66 (8.4)	232 (9.5)	230 (12.9)
	主として自然科学の研究	257 (33.9)	69 (8.2)	56 (17.3)	5 (4.5)	78 (22.7)	5 (11.4)	32 (64.0)	173 (17.9)	35 (4.4)	596 (24.4)	114 (6.4)
	主として実社会の研究	99 (13.1)	114 (13.6)	44 (13.6)	48 (43.6)	73 (21.2)	8 (18.2)	4 (8.0)	216 (22.3)	195 (24.7)	436 (17.8)	365 (20.5)
	未定	326 (43.0)	505 (60.0)	194 (59.9)	52 (47.3)	164 (47.7)	25 (56.8)	14 (28.0)	482 (49.8)	492 (62.4)	1180 (48.3)	1074 (60.2)
	計	758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)
高校に入学できたのは、つまるところ	自分自身が熱心に勉強したから	325 (42.9)	267 (31.7)	64 (19.8)	19 (17.3)	84 (24.4)	16 (36.4)	24 (48.0)	267 (27.6)	145 (18.4)	764 (31.3)	447 (25.1)
	中学校の先生の進学指導がよかったから	234 (30.9)	332 (39.5)	113 (34.8)	39 (35.5)	67 (19.5)	9 (20.5)	13 (26.0)	275 (28.4)	288 (36.4)	702 (28.7)	668 (37.5)
	幸運にめぐまれたにすぎない	167 (22.0)	193 (22.9)	116 (35.9)	42 (38.2)	175 (50.9)	14 (31.8)	12 (24.0)	352 (36.4)	283 (35.9)	822 (33.6)	532 (29.9)
	神仏のおかげによるものと思う	25 (3.3)	46 (5.5)	30 (9.3)	9 (8.2)	17 (4.9)	5 (11.4)	1 (2.0)	45 (4.6)	62 (7.9)	118 (4.8)	122 (6.8)
	その他	7 (0.9)	3 (0.4)	1 (0.3)	1 (0.9)	1 (0.3)	0 (0)	0 (0)	29 (3.0)	10 (1.3)	38 (1.6)	14 (0.8)
	計	758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)
入試にたいする態度	入試合格が理想実現の第一歩と思い……	304 (40.1)	277 (32.9)	91 (28.1)	25 (22.7)	65 (18.9)	8 (18.2)	18 (36.0)	242 (25.0)	218 (27.7)	720 (29.5)	528 (29.6)
	入試合格が人生のすべてではない……	428 (56.5)	535 (63.6)	212 (65.4)	80 (72.7)	253 (73.5)	33 (75.0)	29 (58.0)	614 (63.4)	506 (64.1)	1536 (62.8)	1154 (64.9)
	高校へ行きたくない。いやいやながら勉強した	21 (2.8)	23 (2.7)	19 (5.9)	5 (4.5)	15 (4.4)	1 (2.3)	2 (4.0)	70 (7.2)	44 (5.6)	127 (5.2)	73 (4.1)
	その他	5 (0.7)	6 (0.7)	2 (0.6)	0 (0)	11 (3.2)	2 (4.5)	1 (2.0)	42 (4.3)	20 (2.5)	61 (2.5)	28 (1.5)
	計	758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)
入試勉強の感想	自己中心のガリ勉強もやむを得なかった	68 (9.0)	61 (7.3)	36 (11.1)	12 (10.9)	60 (17.4)	7 (15.9)	3 (6.0)	85 (8.8)	84 (10.7)	252 (10.3)	164 (9.2)
	勉強々々とやかましくいわれて不快であった	254 (33.5)	220 (26.2)	125 (38.6)	37 (33.6)	72 (20.9)	5 (11.4)	4 (8.0)	288 (29.8)	201 (25.5)	743 (30.4)	463 (26.0)
	勉強もおもしろくそんなに苦痛でなかった	92 (12.1)	99 (11.8)	5 (0.2)	4 (3.6)	29 (8.4)	6 (13.6)	16 (32.0)	14 (1.4)	14 (1.8)	156 (6.4)	123 (6.9)
	入試勉強は苦痛でたまらなかった	331 (43.7)	453 (53.9)	145 (44.8)	55 (50.0)	143 (41.6)	20 (45.4)	25 (50.0)	528 (54.5)	415 (52.7)	1172 (48.0)	943 (52.9)
	しかし今の心境は：苦痛もなつかしい思い出の一つとなっている	172 (22.7)	332 (39.5)	90 (27.8)	48 (43.6)	87 (25.3)	8 (18.2)	4 (8.0)	232 (24.0)	251 (31.9)	585 (23.9)	639 (35.8)
	しかし今の心境は：大学入試で再び苦痛を覚悟せねばなるまい	142 (18.7)	104 (12.4)	33 (10.2)	0 (0)	14 (4.1)	2 (4.5)	19 (38.0)	173 (17.9)	51 (6.5)	381 (15.6)	157 (8.8)
	しかし今の心境は：その他	17 (2.2)	17 (2.0)	22 (6.8)	7 (6.4)	42 (12.2)	10 (22.7)	2 (4.0)	123 (12.7)	113 (14.3)	206 (8.4)	147 (8.2)
	その他	13 (1.7)	8 (1.0)	13 (4.0)	2 (1.8)	40 (11.6)	6 (13.6)	2 (4.0)	53 (5.5)	74 (9.4)	121 (5.0)	90 (5.0)
	計	758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)
入試とクラブ活動など	中学時代から参加していた入学後も続けたい	211 (27.8)	199 (23.7)	97 (29.9)	24 (21.8)	142 (41.3)	21 (47.7)	21 (42.0)	330 (34.1)	250 (31.7)	801 (32.8)	494 (27.7)
	中学では参加しなかった高校でも大学入試に全力をつくしたい	136 (17.9)	51 (6.1)	18 (5.6)	2 (1.8)	26 (7.6)	2 (4.5)	9 (18.0)	128 (13.2)	39 (4.9)	317 (13.0)	94 (5.3)
	中学校では参加しなかったが，高校では参加したい	402 (53.0)	588 (69.9)	193 (59.6)	84 (76.4)	171 (49.7)	21 (47.7)	19 (38.0)	485 (50.1)	485 (61.5)	1270 (52.0)	1178 (66.1)
	その他	9 (1.2)	3 (0.4)	16 (4.9)	0 (0)	5 (1.5)	0 (0)	1 (2.0)	25 (2.6)	14 (1.8)	56 (2.3)	17 (1.0)
	計	758 (100)	841 (100)	324 (100)	110 (100)	344 (100)	44 (100)	50 (100)	968 (100)	788 (100)	2444 (100)	1783 (100)